

()実績(見込)値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

浄水場施設耐震化事業及びポンプ所配水池耐震化事業については当初計画策定時点では予定していなかった事業であるが、その後実施した耐震診断調査において、いくつかの施設が耐震基準を満たしていないと判断されたため、順次耐震化を図ることとなり、その財源として起債額が増加したものの。

配水本管布設工事は基幹管路である 600mm・500mmの配水管を耐震性能を有したダクタイル鋳鉄管に布設替するもので、当該健全化計画策定時は実施年度未定であったが、国による平成20年度2次補正予算において補正限りの措置として、補助採択基準の緩和及び補助対象の追加が図られたことにより、急遽計画を前倒しの上当該工事を追加したため、その補助裏財源に充てるため起債額が増加したものの。

()改善に向けた取組及び今後の見通し

浄水場施設耐震化事業及びポンプ所配水池耐震化事業については、安全性の面から事業の先送りは出来ない。現在厚生労働省の国庫補助採択基準を満たしておらず、起債を財源とする予定だが、採択基準の緩和又は国庫補助制度の改正等があった場合は積極的に活用したい。財政運営に支障が出ない範囲で内部資金の活用も検討する。配水本管布設工事については、国庫補助事業であり補助裏財源として起債を充当しているが、こちらについても内部資金の活用を検討する。今後の見通しとしては、上記の推移表では計画値に届いていないが、上述の取組や入札による事業費の減少などにより、目標値を達成できる可能性も充分あると考えられる。

()改善方針の進捗状況

平成23年度事業から順次、GX形ダクタイル鋳鉄管(新規格品)を採用する。また、現在採択済の国庫補助事業において、終期を平成23年度から平成25年度に延長し、平成24年度については概算要望を行っている。また、地方債発行縮小に努めている。

しかしながら、配水本管布設工事について事業費が増加したため乖離値が拡大した。

()実績(見込)値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

Empty dashed box for input.

()改善に向けた取組及び今後の見通し

Empty dashed box for input.

()改善方針の進捗状況

Empty dashed box for input.

()実績(見込)値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

()改善に向けた取組及び今後の見通し

()改善方針の進捗状況

団体名	下松市
会計名	水道事業会計

累積欠損金比率

類型

a

()推移表

(単位:%)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	計画最終年度 (平成24年度)	計画前年度 (平成19年度)
計画目標値(A)	-	-	-	-	-	-
実績(見込)値(B)	-	-	-	-	-	-
乖離値(C) (A - B)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
乖離率(D) (C / A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

()要因分析

(単位:百万円、%)

	計画最終年度(平成24年度)		再算定値
	計画目標値(A)	実績見込値(B)	
分母(営業収益等)	1,082	1,041	1,041
分子(累積欠損金)	-	-	-
累積欠損金比率	-	-	-

分母悪化要因

(単位:百万円)

要因	影響額(百万円)	備考	やむを得ない事情
合計	-		

分子悪化要因

(単位:百万円)

年度	純損益		乖離値(A-B)	乖離要因	やむを得ない事情
	計画目標値(A)	実績見込値(B)			
平成20年度					
平成21年度					
平成22年度					
平成23年度					
平成24年度					
合計			-		

()実績(見込)値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

--

()改善に向けた取組及び今後の見通し

--

()改善方針の進捗状況

--